高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人　田村佐起三

〒六〇四　八〇二三
京都市中京区蛸薬師通河原町東入
電話（〇七五）二五三・〇七〇七

『揺れる情（こころ）』通信㉔

稲荷山武田病院院長　土屋宜之／元京都医療センター外科部長

親から子へ、子から孫へ愛情は受け継がれていきます。そしてそのすそ野はどんどん広がっていきます。愛情も宣長さんの考え方では感情（うごくこころ）の一つであることに間違いありません。未来へ向かって存続していくのです。

入院中のRさんはもう孫を抱きあげる力は残っていません。頬に触れ、もみじ手を見つめることはできますが。でも「私の母がまた孫を抱きあげて頬寄せ合って手を堅く握ってよちよちと歩かせてくれると思います」と言われました。間違いなく愛情は存続します。愛情は本能の中に組み込まれています。

Rさんの母上も同じようにやつれて来ています。しかし眼だけは生き生きとして、その光には凄みが出てきました。Rさんの愛情を受け止めて引き継いでいくには、それ相応の覚悟と決意がいるようです。自然と当たり前のように愛情が存続していくのではなく、すごい力が必要なようです。

京都市京セラ美術館
《洋画の夜明け―黒田重太郎にならって》

6月20日～8月31日

京都洋画壇の重鎮であった黒田重太郎は、画家であると同時に多作な文筆家でもありました。その著作はフランスを中心とするヨーロッパの美術動向を伝え、西洋美術受容において重要な役割を果たしました。

1947年に出版された『京都洋画の黎明期』は、京都を中心に据えた日本洋画全体の発展経過が体系的に記述されており、2006年に増補改訂版が刊行されるなど現在においても京都洋画壇を語る上で欠くことのできない一冊です。

本特集では黒田が紡いだ京都洋画壇の形成過程を所蔵品で辿り紹介します。先覚として登場する田村宗立から京都府画学校設立と関西美術会の結成、そして浅井忠の京都来往まで、京都洋画の発展の礎をご堪能ください。

《「教育」のあり方》

常楽臺住職　今小路覚真

浄土真宗の開祖である親鸞聖人は、九才で青蓮院に入り、僧侶の道を進みました。

それまでは宇治近くの日野、法界寺近くで日野有範の長子として誕生されましたが、家督を継がれることはありませんでした。

親鸞聖人の師である法然上人も同じで、現在でいえば小学校低学年の年齢で僧侶の道に進んでおられます。

鎌倉時代に限らず、自らの意思をもって僧侶の道に進まれた人はどれほどおられたのでしょう。貴族といわず皇族といわず、いわば行き場のなくなった人が多く僧になられています。

しかし僧の世界に入って、先師の教えを受け、環境に馴染んでいくにつれ自らの立ち場を確立されて、ある人は開祖となり、ある人は比叡山で名僧といわれるようになりました。

幼くして自らの志しをもたなくても、環境と師が揃えば、道が開けていく、という実例としてみられます。現代教育にも当てはまることがありそうです。

《ワイン偽装問題》

イタショク　福村直

日本では今まで中国製餃子・うなぎ等の毒物混入や飛騨牛・米の産地偽装が、メディアに取り上げ不安を掻き立てて来ました。同じくイタリアでもチーズからダイオキシンが検出されるなど食品はもちろん、ワインについては1986年に工業用アルコール添加が発覚。19名の死亡を含む多数の被害者を出し世界中に衝撃を与えました。問題はこれが個人経営者単独ではなく、大がかりな規模で行われており、マフィアとの関係があることです。

日本イタリアを問わず偽装を生む背景の一つに過剰な価格競争が考えられます。少しでも安い価格の商品に消費者が集まる限り、不法と承知ながら利益のために偽装を行う。自分だけではないとの思いに、徐々に罪悪感は薄れていきます。私たち消費者も低価格に踊らさることなく「本物」を理解し、安心して食を楽しめる社会を作りたいものです。

健康レシピ

栄養士　國松美也子

《6月レシピ》

夏野菜が出回ってくる季節！

ビタミン・ミネラルたっぷりの夏野菜で栄養補給を！

オクラは食物繊維が豊富で、ねばねばとした食感の正体でもあります。

『オクラと長芋ネバネバおかか和え』（2人分）

オクラ4本、長芋3センチほど

カツオ節ひとつみ、白だし大さじ1・1／2

①オクラはゆがいて、1センチ幅ぐらいにカット。

②長芋は皮を剥いて、サイコロ状に切る。

③ボールに①と②を入れて、カツオ節、白だしを入れて、和える。

《大原流声明雑話㉘》

實光院住職　天納玄雄

「法華懺法」を複雑な旋律によって修する「声明懺法」は主に宮中御懺法講に用いられた声明として知られているが、かつては『妙法蓮華経』を書写する「如法写経会」においても唱えられていた。

仏道修行の実践として経典を書写をすることと自体は古くから行なわれていたようであるが、この写経会は慈覚大師円仁の故事に倣って修されるものである。この写経会において、写経の前段階として修されるのが「如法懺法」である。旋律は御懺法講の「声明懺法」と同じであるが、次第はより丁寧なもので、通常は省略して一反だけ読む部分を、三反繰り返した り、五体投地という最上級の礼拝を用いて儀式を執行する。ここでいう「如法」とは、可能な限り丁寧に儀式を修するという意味である。